

第1週(1月1日～1月7日)トピックス:<インフルエンザ>

【発生動向】

京都市のインフルエンザの定点あたり報告数は8.38(前週16.77)、全国は12.66(前週21.65)で、ともに減少しました。第52週から第1週は年末年始で休診の医療機関が多いため、例年この時期は報告数が減少する傾向にありますが、インフルエンザは例年11月中旬から12月上旬にかけて流行入りし、1月下旬に流行がピークとなるため、再び増加に転じる可能性があるため、今後の発生動向に注意が必要です。

今シーズンは、本市、全国共にシーズン開始の第36週時点で、既に流行入りの目安である定点あたり報告数「1.0」を超えており、その後も増加し、全国では第40週、本市では第42週に注意報レベルの目安である「10」を超えました。さらに全国では、第49週に警報レベルの目安である「30」を上回っています(図1)。全国で警報レベルとなったのは、新型コロナが流行する前の2018～19年シーズン以来、また大流行した2009年に次ぐ早さとなっています。

都道府県別で見ると、沖縄県を除く全ての地域で減少していますが、発生地域に大きな偏りはありません(図2)。

年齢階級別では、約半数が14歳以下と若年層が多くなっています(図3)。家庭内での感染により、高齢者を含めて全世代的に感染が広がる可能性があるため、特に家庭での感染予防対策をしっかり行いましょう。

【症状及び予防】

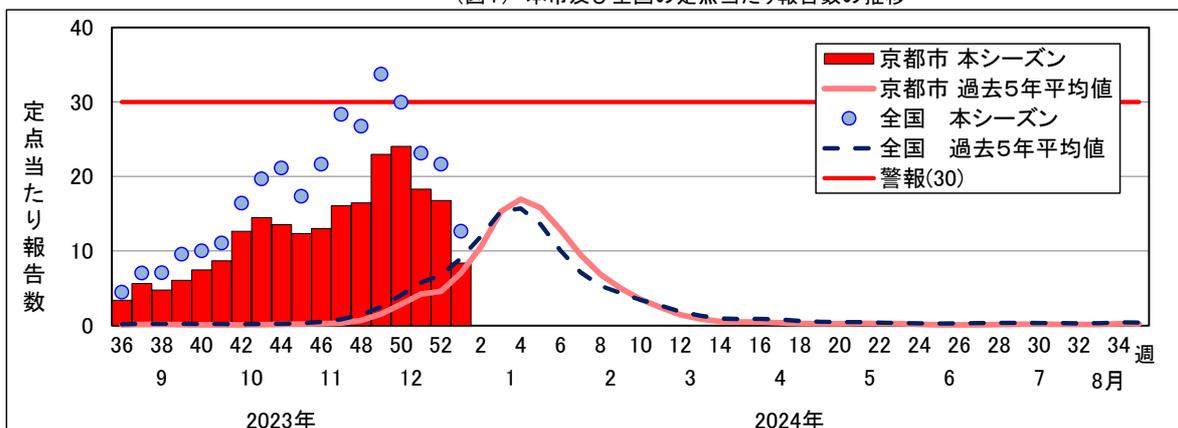
インフルエンザは1～4日間の潜伏期間を経て、急な発熱(38℃以上の高熱)・頭痛・全身倦怠感・筋肉痛・関節痛等が出現し、併せて鼻水・咳等の症状もみられます。

感染を予防するためには、新型コロナウイルス感染症の対策と同様、手洗いの徹底、必要に応じたマスクの着用など基本的な感染対策に努めましょう。外出時は人ごみを避け、室内においてはこまめに換気しましょう。また、免疫力向上のためにバランスの取れた食事や十分な睡眠などを心掛けましょう。

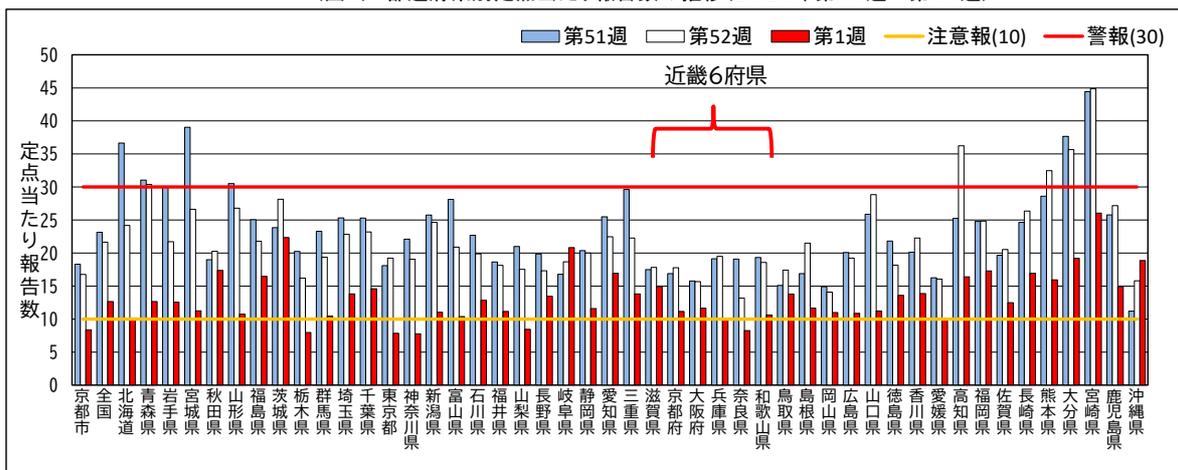
京都市では咳エチケットについて紹介しています。詳しくは下記URLを御参照ください。

- 京都市こどもの感染症 令和5年秋号(11月)(京都市衛生環境研究所)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000146238.html>
- インフルエンザ予防対策について(京都市情報館 医療衛生企画課)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000291400.html>

(図1) 本市及び全国の定点あたり報告数の推移



(図2) 都道府県別定点あたり報告数の推移(2023年第49週～第51週)



(図3) 年齢群別構成割合の推移(全国)

